



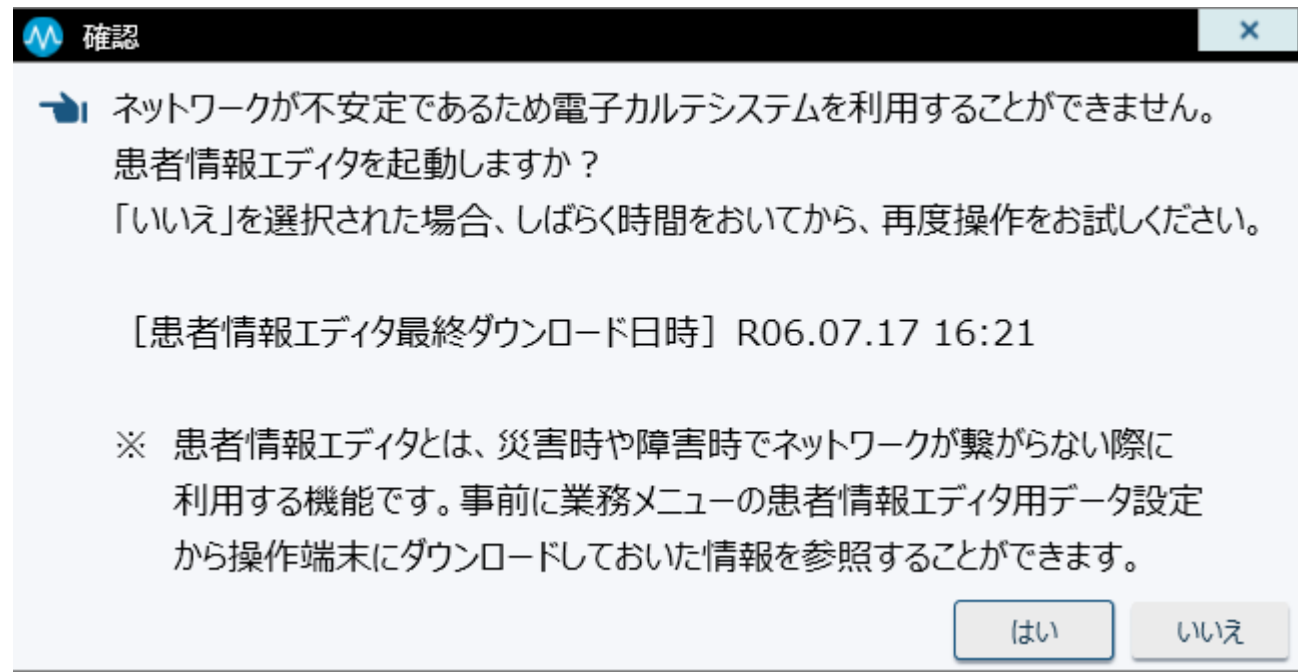
① 「患者情報エディタ」を用いた運用

 株式会社 EMシステムズ

#	マニュアル名	マニュアル内容
①	「患者情報エディタ」を用いた運用	障害時の運用について、事前に院内で確認・ルール決めが必要です。 患者情報エディタを用いた運用例を説明しています。
②	「患者情報エディタ」の設定	患者情報エディタを使用する場合、MAPs for CLINICにて事前設定が必要です。その設定について説明しています。
③	「患者情報エディタ」操作マニュアル 【パターンA】	実際に障害が起こった際に # ①における <u>パターンAの運用の場合の操作</u> を説明しています。
④	「患者情報エディタ」操作マニュアル 【パターンB】	実際に障害が起こった際に # ①における <u>パターンBの運用の場合の操作</u> を説明しています。

本マニュアル

このダイアログが出たら、患者情報エディタに切り替えるかどうかご判断ください。



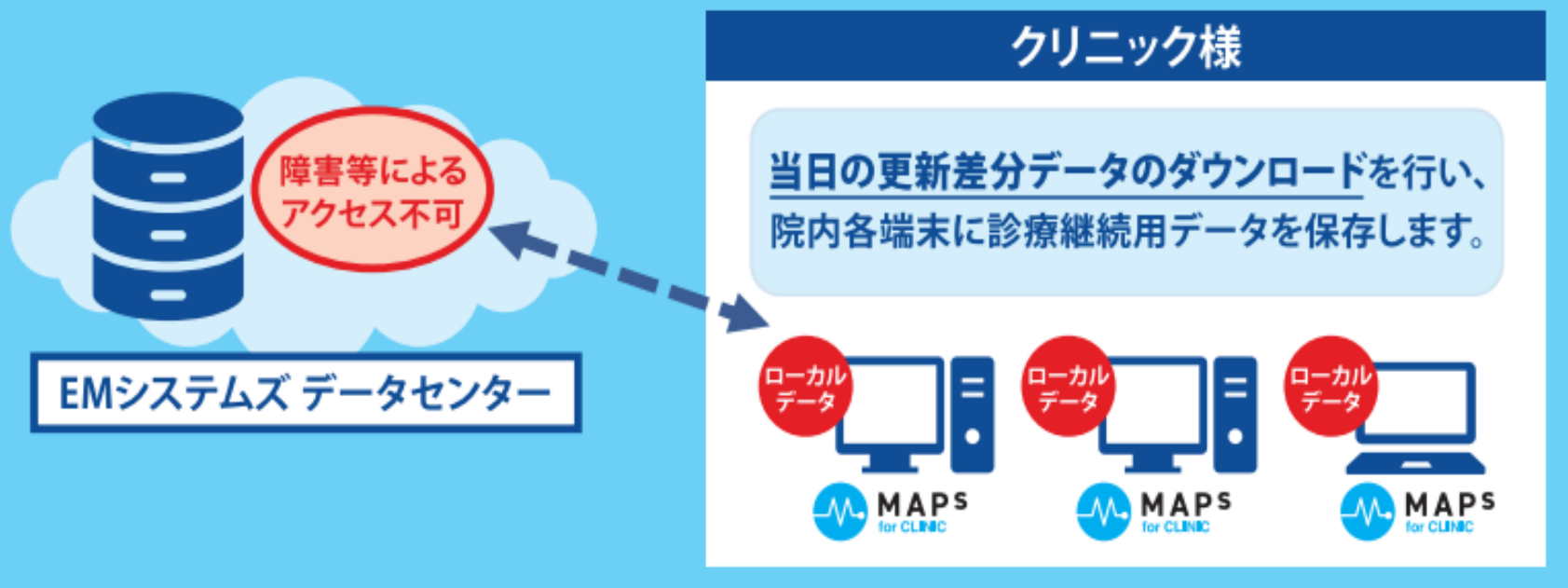
業務終了後にデータセンターのサーバーから当日更新分のデータのダウンロードを行い、導入施設様の各端末で診察継続に必要なデータの保存／参照／編集に対応しています。

院内ネットワーク
障害

通信機器
故障

データセンター
障害

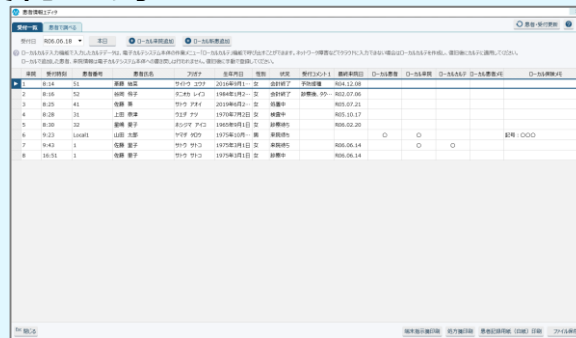
万一のネットワーク障害は、複数の原因により発生します



「患者情報エディタ」機能でできること

受付業務

- ・電子カルテの当日来院リスト情報を表示
- ・既存患者・新規患者の来院受付登録
- ・当日来院以外の患者検索



簡易的なカルテ入力

- ・「診療行為セット」より入力
- ・入力したカルテは、障害復旧後、MAPsforCLINICへ転記操作が可能



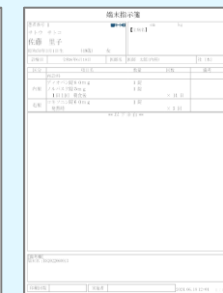
ダウンロード情報の参照

- ・患者基本情報の確認
- ・基礎情報・傷病名・予約の確認
- ・過去カルテの参照



簡易的な帳票印刷

- ・患者記録用紙 (受診記録記載用)
- ・院外処方せん
- ・端末指示箋



障害発生時にどちらの運用パターンで、患者情報エディタを使用するか選択してください。

A ローカルカルテを参照し、ローカルカルテに診察記録を入力する

B ローカルカルテは参照のみとし、診察記録を手書きする

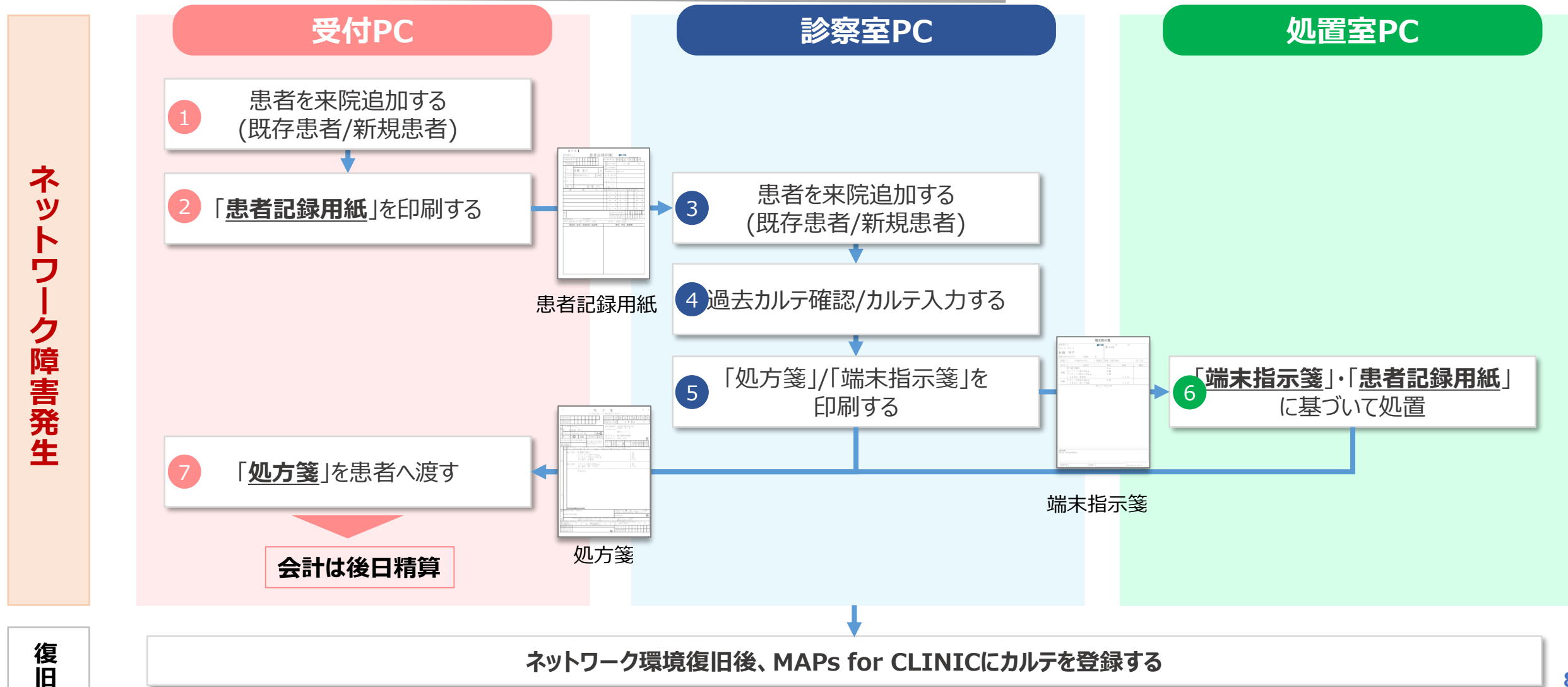
Aの運用パターンを選択した場合、患者情報エディタでできることをご案内します。

A ローカルカルテを参照し、ローカルカルテに診察記録を入力する

- 患者の動きと一緒にまわす紙カルテのような患者記録用紙を印刷できます。
- ローカルカルテに入力した内容は、院外処方せんとして印刷できます。
- ローカルカルテに入力した内容は、端末指示箋が印刷できます。
- 障害復旧後、ローカルカルテに入力した内容をMAPs for CLINICに反映することができます。

A ローカルカルテを参照し、ローカルカルテに診察記録を入力する

各端末間での患者状況や入力内容の連携は行わない為、患者記録用紙を印刷して、紙カルテ代わりに回します。



ネットワーク障害発生

復旧

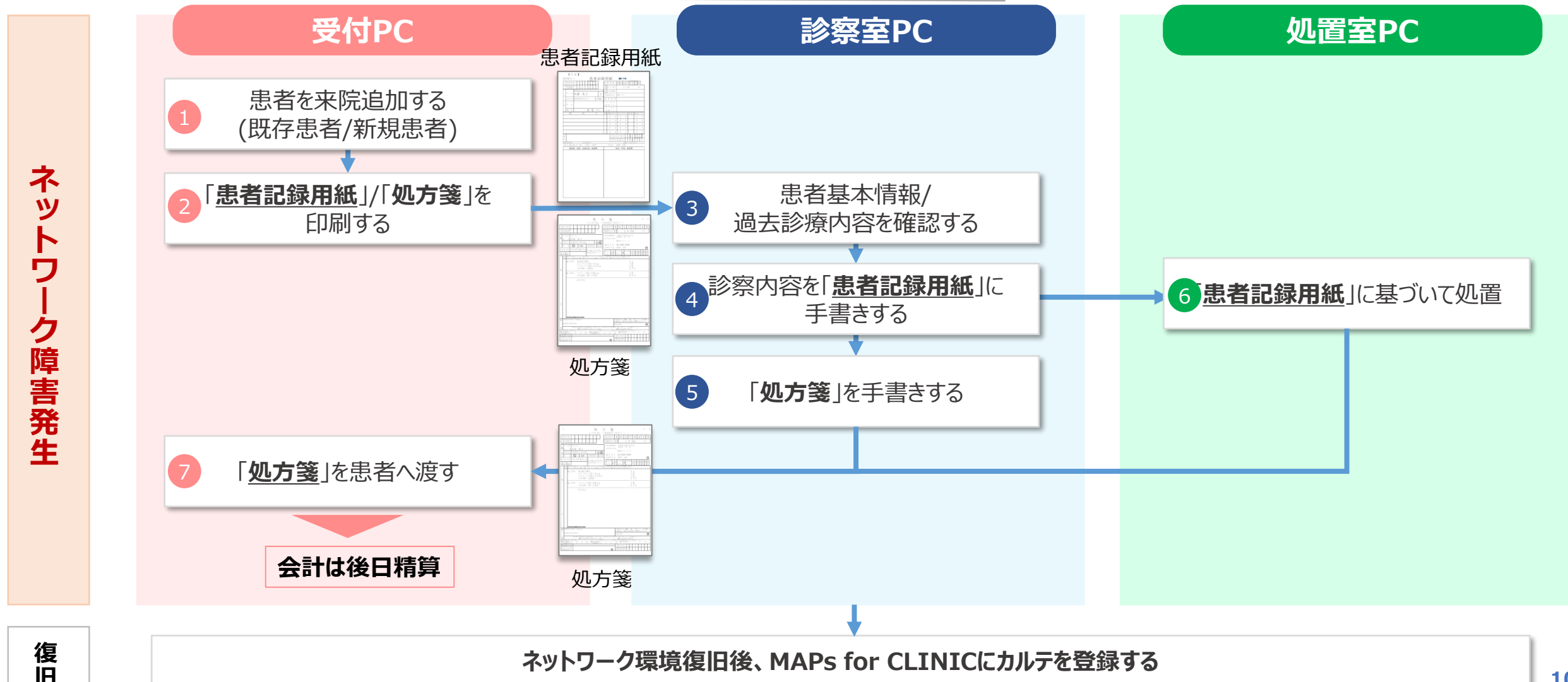
Bの運用パターンについて、患者情報エディタできることをご案内します。

B ローカルカルテは参照のみとし、診察記録を手書きする

- 患者の動きと一緒にまわす紙カルテのような患者記録用紙を印刷できます。
- 院外処方せんのみ印刷ができます。

B ローカルカルテは参照のみとし、診察記録を手書きする

各端末間での患者状況や入力内容の連携は行わない為、患者記録用紙を印刷して、紙カルテ代わりに回します。





TX | **Thanks
Transformation**

医療・介護を「#ありがとう」に変えていく

